

編集長・渡辺の

論両否賛

VOL. 3

お題

そこまでやっちゃおう？

新管理規定

いろんなものが透明化

今月はファンには直接関係ないお話を…。5月某日、丸岡正典や田村隆信など銘柄級がそろったGII取材のため、久々に平和島を訪れた。ピットで2時間ほど選手と話し込んだりしたが、思わずピット入りしたことがあった。それは選手の手荷物検査場を移動する際に使用するカバンが無色透明なトートバッグになっていったことだ。全員だ。小学生がプールに行くときに水着や着替え、バスタオルを入れるやつと言ったらイメージが付きやすいか。これまでは各々が好きなカバン（もちろん透明ではないもの）を使用していたのだが…。

選手に事情を聞いてみると「中身が分かるようにするため」に、貸し出されているとのことだ。



た。中身が見えるようにするためは分かるが、次は「何のために？」という疑問が出てくる。「余計なモノを宿舎に持ち込まないため」だという。そして手荷物検査の時間短縮にもつながるためとのことだが、そもそも前検（前日検査）が終わった時点で手荷物検査は終わらせているので、余計なモノは持っていると思うのだが…。そしてこの透明カバンは、全てのレース場で使用されているとのことだ。

スーツケースの中身も…

透明化はそれだけじゃなかった。選手はレース場に移動する際、荷物をスーツケースに入れて持ち込むが、小分けのための袋やケースも、全て「透明のもの」がマストとなっていた。中身を目視しやすくし、時間を含めた検査の負荷を軽減させることが目的だが、あまりにも丸見えすぎて、選手からは困惑の声も上がっている。「ペラゲージの入れ物とか、カバーとかも全部買い直さなきゃいけなかった」。さらには「下着とか無理よね。パンツの柄が分かっちゃう」

と恥ずかしいモノから、「電動ヒゲ剃りや電動歯ブラシのケースとかもダメ。とにかく中身が見えなきゃダメ」とボヤキが止まらない。

繰り返さないために！

1月に持ち込み禁止品の持ち込みによる管理規定違反で、即刻帰郷処分になった選手がいた。たった1人でも違反すると、規定が厳しくなることは当然だ。連帯責任と言えば連帯責任。それくらい厳しい業界に身を置いているということだ。競馬でも通信機器の持ち込みなどで処分を受けた騎手が多々いた。公正を確保するため、やってもやってもやり過ぎるということはないのだろう。

